

第 1 9 6 9 回埼玉県教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和 5 年 1 1 月 1 7 日 (金) 午前 1 0 時開会  
午前 1 0 時 4 6 分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 日吉教育長、戸所教育長職務代理者、小林委員、首藤委員、櫻井委員、石井副教育長、古垣教育総務部長、青木県立学校部長、石井市町村支援部長、橋本特別支援教育課長、小西生徒指導課長、井澤財務課長、松本文化資源課長、原子特別支援教育課主幹兼主任指導主事  
案浦書記長、小島書記、岩城書記、太田書記
- 4 会議の主宰者 日吉教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- o 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
  - o 日吉教育長が、櫻井委員を議事録の署名者に指名した。
- o 会議を公開しないこととする事項について
- 日吉教育長が、第 8 5 号議案及び第 8 6 号議案の審議について、会議を公開しないこととする動議を提出
- 全出席委員がこの動議に賛成し、当該事項について会議を公開しないことに決定
- o 日程の変更について
- 日吉教育長が、日程を変更し、会議を公開しないこととした事項以外の日程について先に行うこととする動議を提出
- 全出席委員がこの動議に賛成し、日程を変更することを決定

(2) 報告事項

自立と社会参加を目指す特別支援学校就労支援総合推進事業について

橋本特別支援教育課長（提出理由、特別支援学校の就労状況、主な取組、取組の評価と今後について説明）

小林委員 資料3ページの「イ 自立と社会参加を目指す特別支援学校就労支援総合推進事業における取組」において、各取組の令和4年度の実施した件数が記載されていますが、特別支援学校全体のうちのどのくらいの学校が利用できているのでしょうか。

橋本特別支援教育課長 3D意識向上民間研修においては、全ての学校に希望を採り実施しています。令和2年度及び令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響で、受入先企業が受入れをできなくなったり、当事者の先生がり患したりしたことで実績値が落ちています。また、就労支援アドバイザーは分校も含め、全ての学校に配置しています。企業向け学校公開については、高等部を設置する全ての学校で実施しています。

小林委員 資料2ページの「一般就労の状況」については、徐々に数字が伸びており、大変素晴らしいことだと思います。就労できた後、どれくらい続けられているかということも非常に大切なことだと思います。例えば、令和2年度に就労を達成した81.4パーセントの方のうち、長い期間働くことができています方はいくらいるのでしょうか。そのような後追いはしているのでしょうか。

橋本特別支援教育課長 令和4年度の調査になりますが、卒業後1年以内で14.3パーセント、卒業後2年以内で25.8パーセント、卒業後3年以内で31.7パーセント離職している生徒がいるという状況にあります。卒業後については、地域の就労支援センターに支援を引き継ぐ仕組みになっていますが、多くの特別支援学校では、卒業後3年間は学校の先生が就労先を回り、状況の把握やアフターケアを行っています。

小林委員 目標を高く持つことも大切ですが、長く働き続ける若しくは更に高みを目指して転職するという視点も大切だと思います。特別支援学校に限りませんが、就労支援事業は、就職までの支援になりがちだという印象が個人的にはあります

が、この事業はきめ細やかで丁寧な対応をされています。離職してしまった場合は何がいけなかったかという点を把握し、その後の就労支援に活かしていけるとよいと思います。特別支援学校は増えてきており、生徒数も増えてきていますので、これからも長く続いていくであろう就労支援に関するノウハウを蓄積し、今後に活かしていければよいと感じました。

戸所教育長職務代理者 いろいろなことを細やかに実行し、結果的に一般就労の状況の率が上がってきていることは非常によいことだと思います。令和4年度卒業生のうち1年次に一般就労を希望した398人という人数は、特別支援学校高等部の生徒全体の何割くらいになるのでしょうか。卒業する高等部の生徒の人数は年々増えているのではないかと思います、希望者が逆に減ってきていることをどう考えているのか伺いたいと思います。

橋本特別支援教育課長 令和4年度卒業生のうち1年次に一般就労を希望した人数は、全体の36.4パーセントです。年度によってばらつきはありますが、およそ4割程度が希望している状況です。2点目の質問については、生徒の人数の増加とは別に子供たちの障害の程度が年度によって異なるという状況があります。

戸所教育長職務代理者 特別支援学校高等部の卒業生は増加しているのでしょうか。それとも減っているのでしょうか、あるいは同程度なのでしょうか。

原子特別支援教育課主幹兼主任指導主事 全体の高等部の生徒の人数は、ほぼ横ばいといった状況です。具体的にはここ数年間は千名ほどが入学し、卒業している状況です。

戸所教育長職務代理者 卒業生の人数はここ数年ほぼ変わっていないということですね。私も埼玉県内経済6団体の一団体に属している者として、企業と学校とをつなげる取組の一層の充実についての活動をしっかりと行っていきたいと思えます。

首藤委員 学校での取組のほか、保護者や産業界と連携しての重層的な取組があり、さらに就職できなかった子供たちをチームびかびかでカバーし、そしてまた就労へつなげています。そうした取組は非常に素晴らしいと思います。1点お伺いします。就労支援アドバイザーについてですが、企業の人事担当者がアドバイザー

となり、就労関係機関に対しさまざまなアドバイスを行うということでしょうか。そういう人たちをアドバイザーと呼んでいるのでしょうか。そして、そのアドバイザーの話を生徒、保護者及び教員も聞くことがあるという理解でよろしいでしょうか。

橋本特別支援教育課長 就労支援アドバイザーについてですが、障害者を雇用している企業の人事担当者等に依頼をし、その方々に学校を回っていただく形になっています。内容としては、例えば生徒・保護者・学校全体に対しては、就労に必要な心構えや社会人としての心構えを伝えたりしています。また、生徒に対しては挨拶、身だしなみ及び体調管理について話したりしています。また、保護者に対しては、家庭で取り組むべきことをアドバイスするなどしています。さらに学校全体に対しては、マナーやエチケットといったことを助言しています。就労支援アドバイザーはこうした学校に行ってアドバイスを行う方々になります。

首藤委員 非常に大事な役割を担う方だと思います。県が積極的に養成をされているのでしょうか。それとも経済団体の中で人数が確保されるように養成しているのでしょうか。

橋本特別支援教育課長 養成ということはしておらず、そういった立場の方はこちらからお願いして引き受けていただいているという形になります。

首藤委員 大事な方々だと思いますので、積極的に手を挙げてくれるような関係を県としても持ち続けたいと考えます。

### (3) その他

案浦教育総務部副部長兼総務課長 前回会議における報告事項イ「令和4年度埼玉県公立学校における児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」の資料に一部誤りがあったため、この件について説明させていただきます。それでは、当該報告事項の担当課長である生徒指導課長から説明させます。

小西生徒指導課長（第1968回埼玉県教育委員会定例会における報告事項イに係る資料の訂正について説明）

日吉教育長 確認が不足しており、大変申し訳ありませんでした。

(4) 次回委員会の開催予定について

12月1日(金) 午前10時

<非公開会議結果>

(5) 議事

第85号議案 県議会令和5年12月定例会提出予定案件について

県議会令和5年12月定例会提出予定案件の原案について決定しました。

第86号議案 県議会令和5年12月定例会提出予定案件について

県議会令和5年12月定例会提出予定案件の原案について決定しました。